平成 26 年 3 月 5 日

平成 25 年度国立大学図書館協会海外派遣事業参加報告書

筑波大学附属図書館
中山　知士

1．出張者

中山　知士（筑波大学附属図書館）

2．日時

平成 25 年 9 月 22 日（日）～9 月 27 日（金）

3．参加会議名称

ETD 2013 Hong Kong：the 16th International Symposium on Electronic Theses and Dissertations

4．会議開催場所

Hong Kong Central Library（香港中央図書館）

5．参加目的

日本では，平成 25 年 4 月 1 日以降に授与される博士学位にかかる学位論文は，印刷に代ってインターネットによる公表が原則となる，大きな規則改正があった。世界的な学位論文ネットワーク組織である NDLTD（Networked Digital Library of Theses and Dissertations）の主催によって年次で開催されている，電子学位論文に関する国際会議に参加し，日本の現状を報告・広報する。また他国・他機関の参加者による報告を聴くことにより，電子学位論文の世界の現状や事例を調査する。

6．成果

ETD 2013 Hong Kong での National Initiatives セッションの中で「The possibility of networked electronic theses in Japan」と題したプレゼンテーションを行い，学位規則改正とそれに伴う日本の現状や将来の可能性について報告を行った。

プレゼンテーションでは，

・日本の大学，博士論文，機関リポジトリの概要

・学位規則改正のポイント

・インフラとしての機関リポジトリコミュニティの存在
・電子学位論文ネットワーク形成における日本の利点
・オープンアクセスへの影響と国内機関リポジトリコミュニティの広がりの可能性

について報告した。質疑時間のみならずセッション後には，規則の改正とそれに伴い生じる問題点や，今回の規則改正の背景にある考えについてなど，多くの活発な質問を受けた。学位論文のオープンアクセス義務化に，ナショナルレベルで舵を切った日本に対する関心の高さを確認し，あわせて海外の機関リポジトリ担当者と，学位論文電子化の推進における日本の利点を論じることができた。

会議セッションに参加し，他国や他機関の状況や取り組みについても知ることができた。電子学位論文の提出と利用までの経路について，日本においては今後，学位申請者が電子学位論文を大学に提出し，主に図書館で管理・運用する機関リポジトリで公開され，国立情報学研究所が運用する JAIRO などの外部サービスで利用される。一方，海外からの参加者による報告では，特に北米の大学図書館を中心に ProQuest の電子学位論文提出・管理システムの利用が目立ち，日本と異なる経路の存在を確認した。システム概要や利用大学の事例を聞き，商用サービスを適宜利用して学位論文公開を進めていく方法の有効性も確認できた。

また，今回の国際会議を NDLTD と共同主催した香港大学図書館からは，リポジトリシステムおよびユーザーサポートの面で参考になる事例が報告された。香港大学図書館では，機関リポジトリを数年前から，大学内外のデータベースと連携させた CRIS（Current Research Information System）と呼ばれる研究業績情報データベースに変容させ，学内における中核的データベースに成長させることに成功しており，大学の研究支援体制における図書館の役割を再定義する戦略の意義を確認した。また，レファレンス管理ソフトウェアや，剽窃防止ソフトウェアの講習など，学位論文執筆者向けのサポートも積極的に実施しており，電子学位論文の執筆から公開までのライフサイクルにおける，図書館のサポート体制の重要性を確認できた。

7. 所感

会議の性質にもよると思うが，公開された電子学位論文の利用は多いという報告もあり，オープンアクセスで発信するコンテンツとしての，学位論文の意義を感じることができた。それだけに，日本における今回の学位規則改正と今後の電子学位論文の流通は，今後も海外から関心を集めると感じられた。

海外の事例からは，電子学位論文についての問題を考える際，また学位論文執筆者や教員に対してレクチャーや説明を行う際には，電子学位論文の意義とは何か，なぜそれが推進されるのかについての知識と信念を持っておくことが必要だと感じられた。